



"みみ"よりな情報
"ため"になる
情報誌

2020年1月20日冬号

発行：グリーンコープ生活協同組合理事会

出雲市斐川町荏原 2230-1

イラストは引き続き募集中！ お問い合わせはこちらへどうぞ → TEL：0853-73-8010 FAX0853-73-8013

謹賀新年

2019年度

グリーンコープの
学習会・活動いろいろ



報告特集
・後編

メーカー見学報告

『玉木製麺 工場見学』

まつえだんだん委員会

2019年10月4日（金）、グリーンコープとしては今回初めて、玉木製麺にメーカー見学に行きました。

ガラス越しに、工場内で行われている製造ラインやそばについて担当者から詳しく説明を受けることができました。

グリーンコープ限定商品である「そば湯で食べる出雲そば」は、すべて国産のものが使われており、そば粉：小

麦粉＝5：5だそうです。つゆも無添加で、そばに付くそば粉（打ち粉）も多いので、そば湯も楽しめるとのこと

です。
安全安心な材料を使用し、こだわりを持ってグリーンコープに商品を提供されていることがわかりました。

また、そばの美味しいゆで方を教えていただきましたので、ご紹介します。

【お召し上がり方】

Point！① たっぷりとした沸騰湯を準備します。（麺 200g に対し熱湯 3ℓ以上）

一気に麺を入れすぎず、沸騰によって麺が鍋の中で回転するように沸騰したお湯に麺を入れて軽くほぐし、記載の時間をもとにお好みで茹でてください。**Point！②** 商品の作り方に記載してある茹で時間を基準に、正確に計りましょう。

〈冷たいそばの場合〉

茹であがりましたら、ざるに移し冷水で洗います。

ぬめりが取れたら**Point！③** 『氷水』にくぐらせてぬめ、

（この一時間でしっかりとコシのあるそばになります）水気を切って器に盛り付けます。お好みのつゆと薬味でお召し上がりください。

〈温かいそばの場合〉

あらかじめ熱いかけだしを作っておきます（出雲では茹で汁でつゆを希釈します）。茹であげた麺をそのまま入れて、お好みの薬味を添えてお召し上がりください。



12月理事会報告（2019.12.6開催）

- ・一般社団法人「抱樸」設立に関するお願い
- ・臨時総代会の開催について
- ・グリーンコープの「脱原発政策」の取り組み
- ・・・などを協議しました。

数字でみるGC生協（島根）

（2019年11月20日現在・数字はグリーンコープ登録分です）

新規加入された組合員さん…40名 現在の組合員総数…8,400名（前年対比102.1%）



学習会 参加報告

GMナタネ自生調査報告会に参加して

2019年7月13日

GM 食品いらないキャンペーン主催の会で、東北は宮城から九州までの消費者団体、市民団体が集まりました。各団体の熱のこもった活動報告を聞き、何も知らないままいたのだなと思いき知らされました。

グリーンコープにおいては、熊本や福岡を先人に、兵庫や岡山のナタネの水揚げのある港をもつ単協が地元の行政や議員さんと連携をとって積極的に活動されていました。

岡山では岡山県議・市議全員に参加をよびかけていました。熊本は、県と市町村に宛てた署名活動に取り組み、県知事宛てに 150000 筆を集め、天草市では年間 20 検体の独自調査を決定、八代市などでも予算化した取り組みにつながったそうです。

他団体でも調査活動と合わせた要望活動の

結果、自治体から企業に管

理体制への指導や継続的なモニタリング調査の約束を得られ、本部から CSR を現地に呼び寄せるなど消費者ならではの対応を引き出していました。

『消費者が調査をやめたら、その件は「問題無し」となってしまう』という言葉が印象的でした。

島根はナタネの揚がる（＝製油会社が近くにある）港湾がないこともあり、深刻さを自分事にはできていませんでしたが、今後ますます GM ナタネが拡散してしまったときに、各地の調査データがあることで異変に気づき対応していくためにも地道な調査を続けていくことの重要性を感じました。グリーンコープを通じて知り行動することを続けたいと思います。



メーカー 見学報告

～出雲の総代さんなんぼうパン見学～

出雲地区委員会 2019年9月11日

今年の総代交流会は、昨年の総代交流会での「メーカー見学がしたい」の声にお応えし企画しました。例年になくたくさんの総代さんに参加いただきました。

3班に分かれ4・5人ずつ工場見学をしました。衛生管理された工場内は美味しいパンの香りいっぱいでした。

仕事は午前1時開始。日付が変わってすぐからの作業は本当に大変だと思います。こだわった材料に不純なものが混入しないためパンの仕込みはグリーンコープの卵なし→卵あり→市販品の順番で作っているそうです。機械でできる所も最後は人の手でひとつひとつ丁寧に確認されており手作業の温かさを感じました。

食パンはごまかしがきかない、国産小麦はとても難しいと言われていました。また、予約をしてもらってから作るのでもとてありがたいとも言われていました。

控えめに何度も控え室に顔を出してくださいました社長さんがありがたかったです。最後に事務所の前で社長さんを囲み集合写真を撮り解散となりました。

メーカーさんとの顔が見える関係がグリーンコープの宝のひとつだと改めて感じる事が出来ました。これからも作り続けて頂けるよう利用していきたいと思います。



取り組み 参加報告

共生・平和長崎自転車隊

2019年8月8日～9日

2019年8月8日～9日、平和長崎自転車隊に娘と一緒に参加してきました！！

9日の長崎の終戦記念日に向けて、福岡県柳川市から長崎県原爆投下爆心地に向って、大人も子どももスタッフも関係者一同、不戦のゼッケンを背中に自転車で走行してまいりました。

いのちを大切にするグリーンコープ、お互いを認め合って一人一人のいのちを大切に、声を掛け合うことを大切に今年も、自転車隊のリーダーとして参加させていただき、班の子どもたちのいのちを守り抜くことを走行前夜の7日のミーティングで誓いました。

「戦争は、人を痛めつけ相手の物を分捕って、人を殺してしまうとても残酷なこと、それは人の願望や欲にまみれたもので、そうやって戦争が起こるのである。」35年前に、ここ柳川のお父さんお母さんが自分たちが戦争はしないという思いを私たちが起こさなくてはいけないんじゃないかという思いではじまったのがこの長崎平和自転車隊の始まりでした。

一人で銀輪隊12.5km、自転車隊約5.2kmは走れない。前を走るリーダー、後ろを守るサブリーダーや大人、一緒に走る仲間、応援してくれる人、伴走してくれるスタッフ、救護してくれるスタッフ、自転車の運び出しをしてくれるスタッフ、これだけの体制で私たちの平和活動がいのちを守りながら出来るのでした。

初日は、早朝6時より約20km以上を佐賀県を経て、長崎県諫早市にまで走りぬきました。



2日目、早朝銀輪隊を見送り、バスからの応援に回った後、長崎蒲鉾からの走行になりました。

この日の難関は4km続く長い上り坂。日見峠は、暑い！キツイ！もうダメかと思ってしまう上り坂。ですが、原爆で被爆していた人はもっともっと苦しかったんだと感ぜられる坂でもありました。

チームが一体となり、一時も子どもたちから目が離せなくなりましたが、子どもたちの眼差しと一緒にこの上り坂を乗り越える強い意志の眼差しでした。長崎市内の休憩ポイント、伊良林小学校では、登校日である全校生徒とエール交換を行い平和への願いをさらに強いものとなりました。

いよいよ爆心地に向かって、銀輪隊・自転車隊は3列の隊列を組み街中を走行します。無事に全員、爆心地に到着し、原爆投下のその時間を迎えようとしていました。

平和のつどいでは、子どもたちの言葉からの切なる平和へ願いをうけ、胸が締め付けられる思いでした。



この夏、親子で2日間自転車で走行できたことにより、親子での絆もさらに深まりました。不戦への願い、子どもにとって、今だからこそ学べる平和学習でもありました。

子どもたちにとって、心に刻まれる不戦。忘れることのない平和の取り組みだと思いました。

むすめ自身も、当たり前前の日常のありがたさを実感したと話していました。

共同体商品おすすめ委員会

視察・交流会参加報告大特集

〈七月〉北海道納豆用大豆 生産者（鵠川農協）

北海道の鵠川（むかわ）農協さんは「すずまる納豆」でお世話になってい
る生産者さんです。

鵠川町は納豆用大豆の優良品種「す
ずまる大豆」の生産に合っている土地
と言われ、北海道は冷涼な地域の為、
慣行栽培でも農薬の散布が少なく、鵠川の生
産者さんは、苗が小さい時期に一回だけ除草
剤を撒き、それ以降はカルチ（トラクターで
畝の間の雑草をすきこみながら掘り返す作
業）を3回行なう除草方法をされていまし
た。

又それにより、土が柔らかくなり、地温が
上がり、微生物も増え、排水が良くなり、生
育が良くなると言われていました。

視察した広大な土地は薬を使われる事な
く機械で綺麗に除草されていました。

又、涼しいため病気にもなりにくく、虫がつ
いても一回の駆除で十分。「食べものをつく
る側の責任として、安心・安全は当たり前」
と言う言葉を頂きとても嬉しく思
いました。

「遺伝子組み換えいらない!!
つくらない!!地域宣言」をされて
いる街であるという看板も見に行
きました。遺伝子組み換え反対は



もちろん、これからも貴重な国産大豆を作っ
て頂ける事に感謝の気持ちでいっぱいにな
りました。

〈七月〉北海道小麦生産者

国産小麦の生産者「美瑛町
農協さん」と「麦作生産部会
さん」との視察交流会をしま
した。



作付品種は「春よ恋」「秋系、ゆめちから」。
これらの品種になったのは、生産農家と販売
者が一緒になって「パン屋」を作り、自分達
の小麦で出来る事を試行錯誤し、自己評価
し、パン用小麦の産地として非常に向いてい
ると言う事がわかり「麵用」に使われていた
「きたほなみ」よりも「ゆめちから」の方に
力を入れていこうと変わってきた産地だそ
うです。

美瑛は昼、夜の寒暖差が厳しく、
「ゆめちから」の栽培に向いてお
り、蛋白量が北海道平均より約1
割多くなっているそうです。



生産には**テクニクが必要**で、美瑛では情熱
を持った優秀な生産者があり美味しい小麦
が提供されていました。

又パン用小麦第一号として大々的に有名
になった「春よ恋」の面積比率が非常に高い
特殊な産地でもあります。が、「春よ恋」は秋
播き小麦よりも収量が2/3程度と少ない

そうでご苦労もありました。

昨年のように不作の年は出来上がった作
物の蛋白量も減少しており、美瑛の高タンパ
クの小麦がなければ国産小麦のパンは厳し
い状態だったそうです。美瑛町はお花で有名
で「パッチワークの丘」と言われていますが、
花だけでなく秋播き小麦の黄金色と春播き
小麦の緑がパッチワークになって広がる美
しく広大な産地でした。

〈八月〉長野県りんご三産地

りんごの産地である、「なが
の農協飯綱」「信濃五岳会」

「八ヶ岳会」3つの産地の視察
交流しました。「ながの農協

飯綱」は標高500〜700m
の中山間地でりんご栽培に適し



た風土にめぐまれた地域。「信濃五岳会」は
長野県の北部の小布施町と言う半径2kmの
中に全ての集落が入る長野県で一番小さな
町にあり、30〜40代が中心のメンバー
「八ヶ岳会」は信濃五岳会の麓から飯綱の間
の圃場で千曲川が近くに流れていました。

視察当初の生産者さんの悩みは今年5月
に遅霜の被害に遭い「食べられる実がなるか
どうか心配」と話されていましたが、りんご
の底力で秋にはしっかり実っていました。

しかし、秋には大きな水害があり、十七名
中十名の生産者さんが自宅、園地ともに被害
に遭われました。

「りんご」は冬の剪定から開花時の病気や

虫の防除対策、摘果を何度も繰り返しヒヨドリやカラス対策まで私達の手元に届くまでとても多くの作業がある事を伺い、また天候によって実の大きさや見栄えに影響され易い事を知りました。バラ科の果物の無農薬栽培はかなり厳しく生産者も減ってきているそうです。

この度の大変な水害に対して、私達は遠く離れていてなかなか行く事が出来ませんが、食べる事で応援していきたいと思えます。

〈九月〉米沢郷牧場

視察は養鶏場から始まり、「サクランボ」「ラ・フランス」「水田」「餅加工工場」「ぶどう」「ミニトマト」「りんご」と盛り沢山に伺いました。自分達が飼って育てた鶏から肥料を作って、それを畑に撒き出来た作物がまた鶏の飼料になり、無駄な輸送費もかけずに地域で循環していきけるこのようなやり方が、まさに理想形の農業だと言っておられました。

施設、多種多様な圃場、創意工夫をされた堆肥や肥料の工程を見学し、卓越した技術力を持った生産者の熱い思いやこだわり、これからの農業に必要なことを先駆けて組織全体として取り組まれていることが分かりました。若い世代を支えるシステムも構築されて、しっかりとした基盤の上で安心して継続できる農業をされていました。



BW技術を用いた自然循環型農業は事前学習していましたが、「肥料」「BMPラント」「圃場の土」に足を踏み入れる事で実際に「殆んど臭いのしない堆肥」「フワフワの土の圃場」を五感で感じ米沢郷牧場の商品の素晴らしさ、美味しい理由を、理解する事が出来た貴重な体験でした。

米沢郷牧場の一番のルールは「自分の食べるものと売るものを分けない」という言葉

がとても心に残り、このような考え方を持つ人達だから安心して付き合っているのだと思います。自然環境が変わる中、自然と向き合い物を作ってもらえることに本当に有難いと感じました。

〈十月〉津軽みらい農協石川

視察中2日間共、雨の中生産者さんには丁寧に栽培の方法、状況の説明をして頂きました。

視察時は丁度台風19号が今まさに日本に向かっていている状況で、「奇数の台風が怖いんだよ！あのりんご台風も19号だった」と台風が心配



という言葉がずっと聞かれましたが、幸い今年、青森は大きな被害はありませんでした。訪ねた圃場の殆んどが、緩やかな傾斜地でした。

今年の作柄は夏場に雨が少なく、ここ数年



悩まされていた「黒星病」の心配はないが、雨が少ない事でダニが発生して葉の栄養分が少なくなりりんごは小さめで収穫量は昨年の1/2、1/3位になりそうとの事でした。雨が少ないと味はいいが、来年の収穫にも影響があるのだそうです。

青森県にしかないCA貯蔵庫も、りんご貯蔵前だった為、中に入ることが出来ました。貯蔵庫にりんごを入れ、締め切った状態で窒素を充填させ酸素濃度を低くして鮮度を保つ仕組みでした。出荷する時は窒素を抜いて1日経ってから部屋に入らないと、酸素濃度が低い為に人が倒れるかもしれないと言われていました。この貯蔵庫があるので、5月頃まで鮮度の保たれた美味しいりんごが届くとのことでした。

青森県はりんごの一大生産地で津軽みらい農協石川には500名の生産者がいますが、減農薬に取り組まれている「アップルスターズ」の生産



者は昨年まで9名で、今年は2名脱退され7名となっており減農薬栽培の大変さを改めて実感しました。

アップルスターズ副部長さんから「減農薬栽培苦労して大変だねと言われますが、私たちはそれで生活しているので苦労はして当たり前、感謝するのは私たち生産者です。」

近年の異常気象で以前ほど減農薬ではないが、通常栽培から比較すれば身体に優しい

農薬を使い、ダニ剤など、もつと使いたかつたけれど、グリーンコープの組合員さんの事を考えながら、我慢して我慢してやっています」とメッセージを頂き、毎年異なる気候の中で、出来る限り農薬を使わず、手間と時間をかけて育てて下さるりんごを心からありがたく感じました。

また、早期予約で生産者の皆さんは、出荷の予想を立てられるので安心して、「減農薬」を栽培出来る事も改めて実感出来ました。アップルスターズの皆さんは素朴で心優しく温かい方達でした。

〈十月〉ハグルマ株式会社

明治時代創業の歴史ある会社で、2011年に新設・稼働している現在の工場は、設備も新しく管理が行き届いていま



した。環境に配慮した工場で、下水の処理施設や、排気の脱臭処理施設が設置されていました。

又、工場の見学には指定の白衣、マスク、帽子を着用し、私物の持ち込みは禁止と言う徹底した衛生管理で見学時には工場からボールペンとメモ用紙を借りて見学しました。

「ハグルマ(株)」さんで製造している

グリーンコープの商品はトマトケチャップ、ソース類、ドレッシング、タレの数点で、全てリユースびんです。

工場で主にケチャップの製造工程を伺った後はスライドを使つての学習と、ケチャップの食べ比べをしました。ここ数年、国産の加工用のトマトが不足する事から、GC「トマトケチャップ(有機アメリカ産トマト使用)」が配置されています。

アメリカ産の原料は濃縮した「ペースト状」で入荷する為加水して調理しますが、それに比べて国産の原料はピューレ状にしたものを使用します。ピューレの方がペー

ストよりも短い加熱時間で調理出来るので、トマトの風味や本来の香りが豊かに残ります。

食べ比べると、国産トマトの方は少し酸味が強く、アメリカ産は濃厚で、どちらも美味しいと感じました。

又、GC「国産完熟トマトで作ったトマトケチャップ」は加工用のトマトを収穫出来る夏の時期にだけ製造し、原料トマトを生そのまま入荷し、すぐに製造に取りかかります。製造工程の中で一度しか加熱しないので、トマトの風味が豊かで本来の香りが生きているのです。

貴重な国産加工用トマトの生産量は年々減っており、今年「ハグルマ(株)」さんには「試験栽培をして貰った農家」に、会社にはトラックがない為、借りて集荷して

頂いた話を聞きました。

又、グリーンコープのウスターソースの木樽の見学も出来ました。

木樽は吉野杉で作られ、3カ月以上熟成された他にはない「ウスターソース」でした。

工場では組合員の声に出来る限り対応して、香辛料を中国産は使用を中止する事が出来たと説明がありました。

ケチャップもウスターソースも他にはない貴重な調味料で、その調味料を手にする事が出来る事は本当に幸せな事だと感じました。



おわりに

グリーンコープのコンセプトは『生産者』と『組合員』が向き合った物作り。この往復運動がなくて良い物は作れません。

先輩組合員さん達が、約30年前からこの思いで取り組んで来られました。

しかし、たった1日自然が味方ではなくなった時、1年のうち残りの364日が無駄になった気がしました。

今年の台風による水害を見ていてつくづくそう思いました。

異常気象が続く厳しい生産環境の中、一生懸命に作物を作ってくださいっている生産者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

学習会 参加報告

行岡みち子さんの平和学習会に参加してきました

2019年10月22日

平和学習会へ参加するにあたり、講師が行岡みち子さんとわかったとき、福祉学習会ではなくて？と少し不思議に思っていました。目的が「組合員一人ひとりが、平和について広い視点で考え、深める学習会」として、「グリーンコープの困窮者支援の始まりと地域づくり」行岡みち子さんにお話しいただくということでした。

始めに、今は平和がしっかり守られているから、そうでなければ共生を目指すこともできないと話され、生活再生事業立ち上げのいきさつ、思い出深い相談者の話、ホームレス自立支援にも関係のあるファイバーリサイクルの話など語られることは盛り沢山でした。

行岡みち子さんプロフィール

- ・グリーンコープ連合常務理事歴任後、2006年に生活再生事業を開始し、生活再生相談室長に就任。
- ・2012年からグリーンコープ連合・共同体常務理事、生活再生事業推進室長。
- ・2012（平成24）年～現在まで、厚生労働省の家計相談支援事業検討会委員、一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク事務局長生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業企画・運営委員
- ・国研修（全社共）家計改善支援事業従事者養成研修企画部会長
- ・国研修（全社協）家計改善支援事業従事者養成研修講師兼務



学習会 開催報告

「福島からあなたへ」

2019年10月29日

今年も福島から武藤類子さんをお招きしての学習会でした。9月に判決が出たばかりの裁判の争点と公判で明らかになったことをわかりやすくまとめた「東電裁判 DVD」の視聴から始まりました。

裁判の判決主旨があまりに不自然・不当だったことがよくわかり、3.11以降も原子力機関の体質が変わっていないことがより明らかになりました。「東電刑事裁判・不当判決」

<https://youtu.be/VY-iMQsxkNU>

で検索すると無料で視聴できますので、ぜひ多くの方に知っていただきたいです。

後半は、福島で起こっていることの報告でした。原発敷地内での汚染水問題、倒れたら危険な排気筒の解体作業、毎日5000人規模の被爆労働は内容を知らされていない外国人研修生まで作業に従事している現状など。

暮らしの面では避難指示区域外避難者の家賃補助打ちきりによる生活困難や、行き場のない汚染土や焼却ゴミは再利用計画によって一般

に出回る可能性をはらむことなど。

懸念すべきは、子どもたちへの放射能教育の方向性です。放射能の危険性や避け方を学ぶよりも共存していくことへ誘導したり健康検査のデメリットを強調したりと、守る方向ではないと感じます。会場からの感想では、福島県内での暮らしは不安を抱える辛さを語れない空気になっているなどの意見も出ました。

福島県はいまだに緊急事態宣言は解除されていません。類子さんは「事故のことを言葉にすることは一人ではできない。仲間をつくって実態・実相を伝えていくしかない」と仰いました。

この国のむいている方向を認識し、ひとりひとりの小さな選択が未来につながることを意識していこうと思いました。

※台風19号の支援募金箱にて、24000円集まりました。ありがとうございました。講演中におじゃまをしましたことお詫びいたします。





2019年度 地域サークル活動紹介

グリーンコープで助成した、地域で活動しているサークルをご紹介します。

※サークル名横の()内は活動拠点です

サークル「コミ」……(松江市)

身近な暮らしの中の食べもの、衣服、住宅、環境、教育、文化、エネルギーなどについての疑問、質問を一緒に考え、学び、話し合いながら、より良い生活を工夫していきます。

どなたでも参加できます。

連絡先 吾郷一二実 Tel&fax 0852-26-5286

メールアドレス ago123@freed.as.org

エコママクラブ……(出雲市)

エコママクラブは、子育て中のお母さんの学びの場や息抜きの場を提供することを目的に、月に1度さんぴーの出雲で活動しています。

今年も色々な企画をしました。

会のあとはお昼ごはんを作って皆で食べてから帰ります。子ども連れで気軽に参加してもらえるような企画をしています。

ありママクラブ……(松江市)

自分らしさを大切に「あり」のままの自分を生きる イキイキと輝く「ママ」達の集い・学び・出逢う場所(クラブ)です。子ども連れで参加できる楽しいイベントを開催しています。子育てを楽しむ仲間の輪を広げることでしあわせな環境のもとで育つ子ども達が増えていくことを願い活動をしています。

まあるい抱っこ☆てごの会……(出雲市)

抱っこを通して、子育てストレスの軽減や親子の信頼関係の形成、子どもの安心感・自己肯定感の形成などの実現につなげるよう支援を行っています。また、交流と情報交換の場としていただくことで密室育児からの脱却になればと願っています。

絵本を楽しむ会……(松江市)

私たちは松江で月1回、絵本についての勉強会をしています。「成長過程の子ども達にはどのような本が必要か」という観点で、「絵本が子どもに与える影響」や「選び方」「読み方」についてを、「読み比べ」「ワークショップ」など交えて勉強しています。

あげ!そげ?はっけんぐみ……(木次町)

普段の生活の中で「〇〇ってなんでこうなるんだらう?」という疑問をシェアし、それに対する思いや考えを、「あげだわ!」「そげだ〜?」と話し合うことを楽しむ集いです。政治をもっと身近にしたいという思いのもと、テーマはエネルギー問題、子育て、食べ物、平和など幅広いです。

森のおさんぽ会 のはな……(奥出雲町)

未就学児とその家族を対象として、奥出雲の豊かな自然の中で子どもが子どもの時間をのびのびと過ごせるよう、大人も見守りながら自分に出会えるような活動を行うことがこの会の目的です。奥出雲の自然を生かした子育てを大事にし、野外クッキングや創作活動なども取り入れ活動を展開していきます。

木楽にきんさい会……(浜田市)

子どもたちが、自然と触れ合いながら多くの事を体験・経験をして、生きる力を育み大きく成長する礎になればと思います。出来る限り月1回の活動を目指して取り組んでいます。自然環境の中で楽しんでくれる事が、嬉しい事です。

活動は face book で! 参加希望の方は下記まで

木楽にきんさい会代表 鳥本則男 090-3352-5720